

滋賀・尾上浜遺跡

1 所在地 滋賀県東浅井郡湖北町尾上

2 調査期間 一九八九年(平一)一〇月～一九九〇年一二月

3 発掘機関 滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会

4 調査担当者 小竹森直子

5 遺跡の種類 遺物包含層

6 遺跡の年代 縄文時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

尾上浜遺跡は、琵琶湖北東部沿岸の湖北町尾上地先に所在し、湖岸から湖中にかけて広がる。対岸には葛籠尾崎・竹生島が位置し、



(竹生島)

北東には古保利古墳群・山本山城を望む。調査地は旧余呉川の河口部にあたり、河川による土砂堆積によって地形が形成されている。

調査は湖岸堤取付工事先立ち、湖中に三カ所の調査区を設定し実施した。その結果、縄文時代から近世

に至る遺物の包含層及び流路などが確認された。現在、報告書刊行に向けての整理作業中で、遺跡の形成過程・内容などについては検討中である。現時点での特記事項としては、縄文時代後期頃のものと考えられる丸木船がほぼ完形で検出されたことがあげられる。

調査区内では最下遺溝面までに約二・五mの堆積が認められた。

遺物は各層から出土しているが、木簡は最下遺溝面から約一・五m上位の砂礫層から出土した。文字の残存状況は良好ではなく、木簡の時期についても、現時点では判断できない。

8 木簡の釈文・内容

(1) □□ □□ □□ □□ [立カ] (212)×(22)×3.5 081

左側面については文字の残存状況から欠損していることが判明しているが、上下端は摩耗が顕著であることから即断しかねる。

9 関係文献

滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会『文化財調査出土遺物仮収納保管業務 平成元年度発掘調査概要』(一九九〇年)

(松室孝樹)

